

大阪錦繪新聞

第百六十六号

阿州名東縣十五等出仕吉本信治の人の家。權ひ女のおつねとのふ者へ。主人の留守の戸堅く閉て。寝もやぬ夜。押入。一人りの賊へ。研ぎすまむ。出双と眼玉をひらいて。金子出せとせお驚くおつね。此家の権人も。金子の有所へあつねども。看類へ爰と籠寄る。出して渡せと心で。且那の留守は一品でも。紛失をさすのひかへ。心もたけさ女も。持つとあつねのく。持とあつねの浪の白痴。衣類と背負出行て。思ひまよと切り付し。賊もすまむ。出双振り上。まじり程戦と。女の腕のかき。かきますま。切せしむまんと。せし。近所の人か。聞つけて。ひ付来と。有様。賊の品物捨置て。逃去りし。へ一品。とまじり程。此のつね。心ひきま。所とて。縣廳。さるより。賞典と。い。は。や。手。柄。ありと。て。



阿州名東縣十五等出仕吉本信治の人の家

八尾

